

ホタテガイ採苗速報

西湾では来週、東湾では6月末から通常間引きを 付着数が多い場合には早期間引きを

1 各地採苗器への付着状況

6月7、8日に行った第1回臨時付着稚貝調査の結果は、表1および図1～3のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は西湾で105,387個/袋、東湾で313,242個/袋(第1回全湾一斉付着稚貝調査時はそれぞれ86,592個/袋、260,432個/袋)でした。

稚貝の平均殻長は西湾で1.29mm、東湾で1.08mm(第1回全湾一斉付着稚貝調査時はそれぞれ0.87mm、0.75mm)でした。

キヌマトイガイは全湾平均で149,008個/袋、ムラサキイガイは全湾平均で187,304個/袋でした。なお、ウミセミは全湾平均で0.1個/袋が採苗器の中に付着していました。ヒトデは見られませんでした。

2 今後の見込み

付着数が多い採苗器は、稚貝の成長が悪くなり、稚貝採取が大幅に遅れる可能性があるため間引きが必要です。

西湾では来週、東湾では6月末から確実に目で見えるサイズ(殻長2～3mm)になり通常間引きができる見込みです。

ただし、付着数が数十万個と非常に多い場合には、西湾では直ちに、東湾では来週後半から「早期間引きの目安(写真)」を参考に、目で見えるサイズ(殻長1～2mm)で早期間引きを始めてください。

なお、採苗器の中にウミセミや稚ガニが多く、ホタテガイの付着数が少ない場合は、直ちに袋替えをしてください。その際、粗目の袋(ラッセル2分目、タマネギ袋)や穴の開いた袋は使わないようにしてください。

稚貝採取の詳細な時期については、6月21日に第2回全湾付着稚貝調査(間引き前と間引き後の中層、合計2袋)を実施し、6月24日発行予定のホタテガイ採苗速報第9号に掲載しますので、参考にしてください。

※袋替えおよび間引き作業の注意点

- ・採苗器の状況を十分に把握する(稚貝の付着数は地域、垂下水深、投入時期等によって異なる)。
- ・稚貝へのショックは出来るだけ少なくする(間引きを行う場合は、流網などの付着基質を上下に振るだけにして船べり等に叩き付けない)。
- ・採苗器へ残す稚貝の数を自分の目で確認しながら適正にする(2万個程度になるように)。
- ・作業後は、施設を安定させる。
- ・ヒトデの付着が見られるときは、結び目をよく洗う。

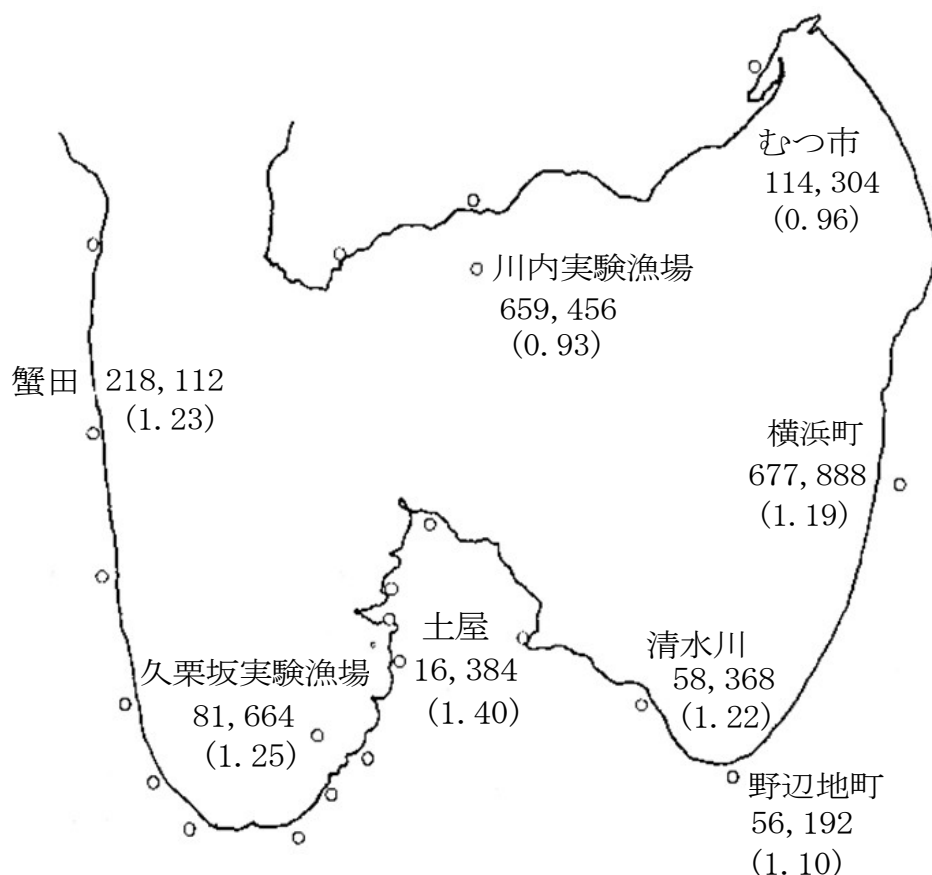


図1 調査地点毎のホタテガイ付着数[単位: 個/袋(平均殻長mm)]

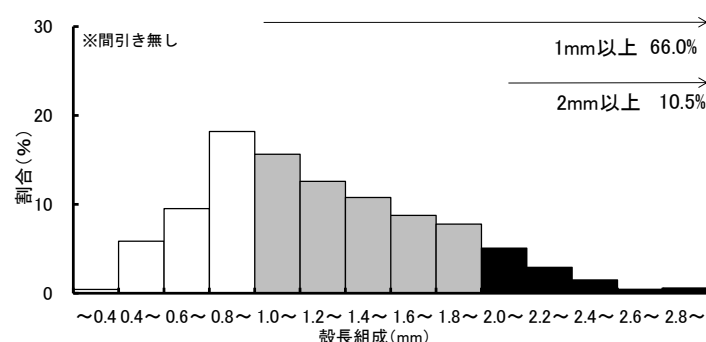


図2 臨時付着調査時のホタテガイ殻長組成(西湾平均)

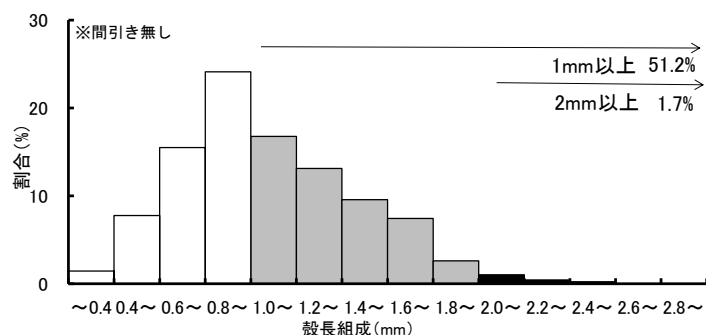


図3 臨時付着調査時のホタテガイ殻長組成(東湾平均)

広がる海の知識! 漁業後継者育成研修『賓陽塾』
身につける新たな技術!
塾生募集中!! 詳しくは水産総合研究所まで



①



②